

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年10月1日
【事業年度】	2023年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	フランス相互信用連合銀行（B F C M） （Banque Fédérative du Crédit Mutuel）
【代表者の役職氏名】	最高経営責任者 （Chief Executive Officer） エリック・シャルペンティエール （Éric Charpentier）
【本店の所在の場所】	フランス、ストラスブール67000、リュ・フレデリックーギヨーム・ライフアイゼン4 （4 rue Frédéric-Guillaume Raiffeisen - 67000 Strasbourg, France）
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 犬 島 伸 能
【代理人の住所又は所在地】	東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 J Pタワー 長島・大野・常松法律事務所
【電話番号】	03-6889-7178
【事務連絡者氏名】	弁護士 今 野 恵一朗
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 J Pタワー 長島・大野・常松法律事務所
【電話番号】	03-6889-7367
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

2024年6月28日提出の有価証券報告書（事業年度自2023年1月1日至2023年12月31日）の記載事項の一部を訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

3 事業の内容

第3 事業の状況

1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

3 事業等のリスク

4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第5 提出会社の状況

3 コーポレート・ガバナンスの状況等

（1）コーポレート・ガバナンスの概要

3【訂正箇所】

訂正箇所は下線で示しております。

第一部 【企業情報】

第2【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

<訂正前>

<前略>

(1) BFCMグループ（連結ベース）

<中略>

損益計算書－IFRS

(単位： 百万ユーロ)	2023年 12月31日	2022年 12月31日	2021年 12月31日	2020年 12月31日	2019年 12月31日
----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

<中略>

当期純利益／	3,345	2,678	2,842	1,508	2,663
純利益－非支配 持分	343	336	356	224	380

<中略>

(2) BFCM（非連結ベース）

<中略>

2. 経営成績					
a) 銀行業務純益、有価証券 ポートフォリオからの収 益及びその他の収益	676,816,837	1,313,378,454	1,537,311,765	901,303,697	1,998,597,812
b) 税金、従業員持株制度に 係る費用、減価償却費、 償却費及び引当金繰入・ 戻入控除前の利益／（損 失）	-74,086,726	1,271,627,782	738,192,649	952,920,847	1,866,736,070
c) 法人税	-6,048,009	4,173,645	-30,957,765	70,287	-141,415
d) 従業員持株制度に係る当 事業年度の費用	184,143	250,684	253,920	172,342	164,089
e) 税金、従業員持株制度に 係る費用、減価償却費、 償却費及び引当金繰入額 控除後の利益／（損失）	1,113,760,465	913,623,423	1,229,991,596	679,724,687	2,003,541,913
f) 分配利益	167,052,211	182,764,672	229,995,992	101,987,182	300,558,251

<中略>

4. 従業員					
a) 当事業年度に雇用した従 業員数の平均（名）	97	81	72	71	69
b) 当事業年度の給与費用	9,323,689	8,095,928	7,798,169	8,657,267	7,815,575
c) 当事業年度に支払われた 従業員給付（社会保障、 社会給付制度）	4,343,443	3,868,942	3,665,573	4,066,722	3,521,612
5. 資産合計	237,797,433,193	246,091,988,634	230,817,308,155	203,123,290,482	191,956,782,781

<後略>

<訂正後>

<前略>

(1) BFCMグループ（連結ベース）

<中略>

損益計算書－IFRS

(単位： 百万ユーロ)	2023年 12月31日	2022年 12月31日 修正再表示後	2021年 12月31日	2020年 12月31日	2019年 12月31日
----------------	-----------------	---------------------------	-----------------	-----------------	-----------------

<中略>

当期純利益	3,345	2,678	2,842	1,508	2,663
当期純利益－非 支配持分	343	336	356	224	380

<中略>

(2) BFCM (非連結ベース)

<中略>

2. 経営成績					
a) 銀行業務純益、有価証券 ポートフォリオからの収 益及びその他の収益	676,816,837	1,313,378,453	1,537,311,765	901,303,696	1,998,597,811
b) 税金、従業員持株制度に 係る費用、減価償却費、 償却費及び引当金繰入・ 戻入控除前の利益／(損 失)	-74,086,726	1,271,627,782	738,192,649	952,920,846	1,866,736,070
c) 法人税	-6,048,009	4,173,644	-30,957,764	70,286	-141,414
d) 従業員持株制度に係る当 事業年度の費用	184,143	250,684	253,920	172,342	164,089
e) 税金、従業員持株制度に 係る費用、減価償却費、 償却費及び引当金繰入額 控除後の利益／(損失)	1,113,760,465	913,623,423	1,229,991,596	679,724,686	2,003,541,913
f) 分配利益	167,052,211	182,764,671	229,995,991	101,987,181	300,558,251

<中略>

4. 従業員					
a) 当事業年度に雇用した従 業員数の平均(名)	97	81	72	71	69
b) 当事業年度の給与費用	9,323,689	8,095,927	7,798,169	8,657,266	7,815,574
c) 当事業年度に支払われた 従業員給付(社会保障、 社会給付制度)	4,343,443	3,868,942	3,665,573	4,066,721	3,521,611
5. 資産合計	237,797,433,193	246,091,988,634	230,817,308,155	203,123,290,481	191,956,782,780

<後略>

3【事業の内容】

<訂正前>

<前略>

1 クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの概要

<中略>

1.3 ケス・フェデラル・ド・クレディ・ミュチュエル

<中略>

CFCMは、クレディ・ミュチュエルの銀行、相互形態によるACMVIE、SA及び連合体により、共同保有されている。

<中略>

2 クレディ・ミュチュエル・グループ

<中略>

クレディ・ミュチュエルは、1947年9月10日法律に準拠している共同組合グループであり、その資本を保有し、民主的に機能する方法に基づいてその戦略を指示する構成員に帰属している。

<中略>

3 クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの事業分野の表示

<中略>

3.2 保険部門

<中略>

フランスでは、生命保険料総収入は2022年度比6.2%増の74億ユーロであったが、その要因はユーロ・ファンドへの払い込みの大幅な増加（20.4%増）であった。ユニットリンク商品に対して投資された新規保険料の割合は低下したが、高水準を維持した（2022年度の37%に対して29%）。規制貯蓄の収益率上昇を背景に、正味保険料は、ユーロ・ファンド（8億ユーロ増）、ユニットリンク商品（8億ユーロ増）を反映して16億ユーロであった（2022年度比で横ばい）。GACMは、その財務の堅固さと多額の準備金により、生命保険及び個人退職保険契約のユーロ・ファンドの平均支払率を、補償特別支給金を含め、2023年度に0.50ポイント引き上げて2.80%とした。ユーロ・ファンドの数理的準備金に対する利益分配準備金（PPE）の比率は、保険契約者へのリターン向上のための評価損計上を経て、6.9%（2022年度は7.8%）となった。

<中略>

3.3 専門事業分野

<中略>

3.3.1 アセット・マネジメント及びプライベート・バンキング

<中略>

3.3.1.1 アセット・マネジメント

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメント

<中略>

大手資産運用会社であるクレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメント（2023年度のフランスにおける運用資産は759億ユーロ）は、顧客に高性能、革新的かつサステナブルな投資ソリューションを提供している。同社は、短期金融市場や柔軟なトレジャリーのソリューション、及びあらゆる地域・資本規模の債券・株式の直接運用におけるにおける長期的な確信に基づくソリューションで特によく知られている。債券運用、株式運用、分散運用及び定性運用に関する包括的かつ専門的な知識は、約110億ユーロの運用資産に相当する600超の専用ファンドの管理に反映されている。

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメントは、発行者の分析、投資判断及びポートフォリオ構築の3つのレベルでESGに関する問題を完全に統合することを目指している。提供する商品は、50超の認定ファンド（運用資産約252億ユーロ）で構成されている（2023年度の認定された新たな5つのファンドを含む。）。CM-AMグローバルクライメットチェンジ（CM-AM Global Climate Change）は、グリーンフィンラベルの認定を更新した。このファンドは、地球温暖化防止、エネルギー移行及びサステナブルな開発に積極的に関わっている企業に投資している。この全ファンドは、社外従業員貯蓄プランにおいても利用可能である。2023年度において、アクティブ運用資産の99%超が、SFDR規則第8条及び第9条並びにフランスAMF規則カテゴリー1及びカテゴリー2に分類されるオープンエンド型ファンドのアクティブ運用資産であった。

<中略>

クレディ・ミュチュエル・ジェスチョン

クレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメントの子会社であるクレディ・ミュチュエル・ジェスチョンは、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの連合体及び銀行の主要な資産運用会社である。証券口座、株式貯蓄プラン、生命保険証券又は資本化により保有する金融資産の様々な運用サービスを提供している。個人顧客、専門家、企業及び団体は、クレディ・ミュチュエル・ジェスチョンの資産運用担当者の専門知識の恩恵を受けることができる。顧客は、一任運用、裁定取引若しくは専用ファンドを通じてその資産の管理を委託するか又はクレディ・ミュチュエル・ジェスチオンのアドバイザー運用又は裁定アドバイザー・サービスによって資産のモニタリングを受けるか選択することができる。

<中略>

シゴーニュ・マネジメント

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルが設立し、所有するシゴーニュ・マネジメントは、オルタナティブ運用に特化したルクセンブルクを拠点とする資産運用会社である。その特殊性は、制御されたリスクの中で投資家に絶対リターン商品を提供することである。シゴーニュ・マネジメントは、UCITSファンドであるテーマ別又は分散されたオルタナティブ投資ファンドと、インデックス・ストラクチャード商品を運用している。同社は、同社に助言するCICのオルタナティブ資産運用実績の恩恵を受けている。作成された商品は、最低3～5年間を推奨所有期間とした長期投資を視野に入れて顧客に提供される。

<中略>

3.3.1.2 プライベート・バンキング

<中略>

バンク・CIC（スイス）

<中略>

バランスシートの合計額は143億ユーロを超え、バンク・CIC（スイス）は、スイスの銀行業界において不動の地位を築いている。

<中略>

3.3.2 コーポレート・バンキング

コーポレート・バンキングは、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの大企業及び機関顧客の戦略的課題に対応している。同社は、当該顧客のニーズにグローバルなアプローチの一環として仲介している。そのチームは、フランス国内並びにロンドン、ブリュッセル、ニューヨーク、シンガポール及び香港のCICの支店を拠点としている。コーポレート・バンキングは、フランス内外において各顧客のニーズに合わせた専門的な資金調達及び展開ソリューションを提供し、さらに、大口顧客のための事業ネットワークの業務を支援している。

<中略>

3.3.2.3 国際事業及び外国支店

<中略>

ISO 9001の認証を受けた単一の事業センターによって管理されている国際的文書取引及び保証の処理は、コーポレート・バンキング支店との緊密な協力を確保するため、5つの地域ハブによってフランス全土に広がっている。国際商取引における信頼できる仲介機関としての伝統的な役割に加えて、CICは企業に国際的サポートを提供している。その専門子会社であるCIC・エデクスポールを通じて、顧客はその国際展開に合わせた個別の支援及び助言を得ている。専任の従業員は、ネットワークのアカウント・マネージャー、支店及び駐在員事務所と緊密に連携する。その役割は、多市場を対象とするターゲット設定、パートナーの選定、商業又は事業施設の設立支援及び対象市場の詳細かつ現実的な分析を行うことである。2023年度に合計で約250社がCIC・エデクスポールの支援を受けた。様々な緊張（経済、地政学等）がある期間中に駐在員事務所のチームは、顧客のために効果的な中継機能となるアンバサダーとしての役割を果たした。

<中略>

3.3.4 プライベート・エクイティ

<中略>

2023年度は歴史的な投資水準となった。地政学的不確実性、企業の期待成長に対する経済的影響、及びその結果による評価マルチプルを踏まえた上で、十分な注意を払いながら約700百万ユーロを投資した。フランスでは430百万ユーロ以上が国内の新たな企業に投資され、200百万ユーロを投資先企業の資本に再投資された。

<中略>

3.4 テクノロジー、ロジスティクス及びメディア

<中略>

ユーロ・アンフォルマシオン

<中略>

ユーローアンフォルマシオン・デヴロプマン（Euro-Information Développements）

ユーローアンフォルマシオン・デヴロプマンは、グループの全てのIT開発を担当しており、16のクレディ・ミュチュエルの連合体、CIC銀行並びにクレディ・ミュチュエル及びCICの様々な事業分野で共有される情報システムの開発に責任を負っている。提供されるサービスの質、セキュリティ、データ保護、技術・開発の管理等の指針に従い、その必要性に配慮している。2022年度にEID開発チームの活動は横ばいであり、2023年度の開発日数は956,470日で、2022年度比で3%増加した。

<後略>

<訂正後>

<前略>

1 クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの概要

<中略>

1.3 ケス・フェデラル・ド・クレディ・ミュチュエル

<中略>

CFCMは、クレディ・ミュチュエルの銀行、相互形態によるACM・ヴィ・SA及び連合体により、共同保有されている。

<中略>

2 クレディ・ミュチュエル・グループ

<中略>

クレディ・ミュチュエルは、1947年9月10日付の法律に準拠している共同組合グループであり、その資本を保有し、民主的に機能する方法に基づいてその戦略を指示する構成員に帰属している。

<中略>

3 クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの事業分野の表示

<中略>

3.2 保険部門

<中略>

フランスでは、生命保険料総収入は2022年度比6.2%増の74億ユーロであったが、その要因はユーロ・ファンドへの払い込みの大幅な増加（20.4%増）であった。ユニットリンク商品に対して投資された新規保険料の割合は低下したが、高水準を維持した（2022年度の37%に対して29%）。規制貯蓄の収益率上昇を背景に、正味保険料は、ユーロ・ファンド（8億ユーロ増）、ユニットリンク商品（8億ユーロ増）を反映して16億ユーロであった（2022年度比で横ばい）。GACMは、その財務の堅固さと多額の準備金により、生命保険及び個人退職保険契約のユーロ・ファンドの平均支払率を、補償特別支給金を含め、2023年度に0.50ポイント引き上げて2.80%とした。ユーロ・ファンドの数理的準備金に対する利益分配準備金（PPE）の比率は、保険契約者へのリターン向上のための評価損計上を経て、6.9%（2022年度は7.8%）となった。

<中略>

3.3 専門事業分野

<中略>

3.3.1 アセット・マネジメント及びプライベート・バンキング

<中略>

3.3.1.1 アセット・マネジメント

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメント

<中略>

大手資産運用会社であるクレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメント（2023年度のフランスにおける運用資産は759億ユーロ）は、顧客に高性能、革新的かつサステナブルな投資ソリューションを提供している。同社は、短期金融市場や柔軟なトレジャリーのソリューション、及びあらゆる地域・資本規模の債券・株式の直接運用における長期的な確信に基づくソリューションで特によく知られている。債券運用、株式運用、分散運用及び定性運用に関する包括的かつ専門的な知識は、約110億ユーロの運用資産に相当する600超の専用ファンドの管理に反映されている。

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメントは、発行者の分析、投資判断及びポートフォリオ構築の3つのレベルでESGに関する問題を完全に統合することを目指している。提供する商品は、50超の認定ファンド（運用資産約252億ユーロ）で構成されている（2023年度の認定された新たな5つのファンドを含む。）。CM-AMグローバルクライメットチェンジ（CM-AM Global Climate Change）は、グリーンフィン（GreenFin）ラベルの認定を更新した。このファンドは、地球温暖化防止、エネルギー移行及びサステナブルな開発に積極的に関わっている企業に投資している。全ファンドは、社外従業員貯蓄プランにおいても利用可能である。2023年度において、アクティブ運用資産の99%超が、2019年12月9日付サステナブルファイナンス開示規則（SFDR規則）第8条及び第9条並びにフランスAMF規則カテゴリー1及びカテゴリー2に分類されるオープンエンド型ファンドのアクティブ運用資産であった。

<中略>

クレディ・ミュチュエル・ジェスチョン

クレディ・ミュチュエル・アセット・マネジメントの子会社であるクレディ・ミュチュエル・ジェスチョンは、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの連合体及び銀行の主要な資産運用会社である。証券口座、株式貯蓄プラン、生命保険証券又は資本化により保有する金融資産の様々な運用サービスを提供している。個人顧客、専門家、企業及び団体は、クレディ・ミュチュエル・ジェスチョンの資産運用担当者の専門知識の恩恵を受けることができる。顧客は、一任運用、裁定取引若しくは専用ファンドを通じてその

資産の管理を委託するか又はクレディ・ミュチュエル・ジェスチョンのアドバイザー運用又は裁定アドバイザー・サービスによって資産のモニタリングを受けるかを選択することができる。

<中略>

<中略>

シゴーニュ・マネジメント

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルが設立し、所有するシゴーニュ・マネジメントは、オルタナティブ運用に特化したルクセンブルクを拠点とする資産運用会社である。その特殊性は、制御されたリスクの中で投資家に絶対リターン商品を提供することである。シゴーニュ・マネジメントは、UCITSファンドであるテーマ別又は分散されたオルタナティブ投資ファンドと、インデックス・ストラクチャード商品を運用している。同社は、同社に助言するCICのオルタナティブ資産運用実績の恩恵を受けている。組成された商品は、最低3～5年間で推奨所有期間とした長期投資を視野に入れて顧客に提供される。

<中略>

3.3.1.2 プライベート・バンキング

<中略>

バンク・CIC（スイス）

<中略>

バランスシートの合計額は143億ユーロであり、バンク・CIC（スイス）は、スイスの銀行業界において不動の地位を築いている。

<中略>

3.3.2 コーポレート・バンキング

コーポレート・バンキングは、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの大企業及び法人顧客の戦略的課題に対応している。同社は、当該顧客のニーズにグローバルなアプローチの一環として仲介している。そのチームは、フランス国内並びにロンドン、ブリュッセル、ニューヨーク、シンガポール及び香港のCICの支店を拠点としている。コーポレート・バンキングは、フランス内外において各顧客のニーズに合わせた専門的な資金調達及び展開ソリューションを提供し、さらに、大口顧客のための事業ネットワークの業務を支援している。

<中略>

3.3.2.3 国際事業及び外国支店

<中略>

ISO 9001の認証を受けた単一の事業センターによって管理されている国際的文書取引及び保証の処理は、コーポレート・バンキング支店との緊密な協力を確保するため、5つの地域ハブによってフランス全土に広がっている。国際商取引における信頼できる仲介機関としての伝統的な役割に加えて、CICは企業に国際的サポートを提供している。その専門子会社であるCIC・エデクスポールを通じて、顧客はその国際展開に合わせた個別の支援及び助言を得ている。専任の従業員は、ネットワークのアカウント・マネージャー、支店及び駐在員事務所と緊密に連携する。その役割は、多市場を対象とするターゲット設定、パートナーの選定、商業又は事業施設の設立支援及び対象市場の詳細かつ現実的な分析を行うことである。2023年度に約250社がCIC・エデクスポールの支援を受けた。様々な緊張（経済、地政学等）がある期間中に駐在員事務所のチームは、顧客のために効果的な中継機能となるアンバサダーとしての役割を果たした。

<中略>

3.3.4 プライベート・エクイティ

<中略>

2023年度は歴史的な投資水準となった。地政学的不確実性、企業の期待成長に対する経済的影響、及びその結果による評価マルチプルを踏まえた上で、十分な注意を払いながら約700百万ユーロを投資した。フランスでは430百万ユーロ以上が国内の新たな企業に投資され、約200百万ユーロを投資先企業の資本に再投資された。

<中略>

3.4 テクノロジー、ロジスティクス及びメディア

<中略>

ユーロ・アンフォルマシオン (Euro-Information)

<中略>

ユーロ・アンフォルマシオン・デヴロプマン (Euro-Information Développements)

ユーロ・アンフォルマシオン・デヴロプマンは、グループの全てのIT開発を担当しており、16のクレディ・ミュチュエルの連合体、CIC銀行並びにクレディ・ミュチュエル及びCICの様々な事業分野で共有され

る情報システムの開発に責任を負っている。提供されるサービスの質、セキュリティ、データ保護、技術・開発の管理等の指針に従い、その必要性に配慮している。2023年度の開発日数は956,470日で、2022年度比で3%増加した。

<後略>

第3【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

<訂正前>

<前略>

業績指標 2027年度

グループは相互共済グループであるため、業績は連帯と密接な関係にあり、最大の強みは**一体性**である。



<後略>

<訂正後>

<前略>

業績指標 2027年度

グループは相互共済グループであるため、業績は連帯と密接な関係にあり、最大の強みは**一体性**である。



<後略>

3【事業等のリスク】

<訂正前>

<前略>

1. グループの銀行業務及び保険業務に関するリスク

1.1 信用リスク

<中略>

- c. グループの最大顧客の1つ又はそれ以上が債務不履行に陥った場合、グループの収益性が低下する可能性がある。クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、主にフランスにおいて、特定の国家、取引銀行又は大企業グループに対して比較的高い単一のエクスポージャーを有しており、これらの一部は公的機関が実施する支援策（すなわち、政府保証融資）から恩恵を受けている。主に変動金利での借入を行うこれらのカウンターパーティーは、金利の上昇や経済情勢の悪化等の影響を受け、返済困難に陥る可能性がある。国家及び類似機関等（2023年度末の総エクスポージャーは1,810億ユーロ）については、グループは主にフランス（1,470億ユーロ）（主にユーロ・システムの加盟銀行であるフランス銀行（Banque de France）（約810億ユーロ））及びフランス預金供託公庫（Caisse des dépôts et consignations）のリスク（460億ユーロ超。規制貯蓄口座預金の集中化制度により、フランスにおいてソブリン・リスクとみなされている。）のエクスポージャーに晒されている。国家以外では、2023年12月31日現在、300百万ユーロ（純利益の10%未満に相当）を上回るオン・バランスシート及びオフ・バランスシート上の単一のエクスポージャーは、銀行に関しては6のカウンターパーティーについて約60億ユーロ、企業に関しては67のカウンターパーティーについて440億ユーロであった。これらのカウンターパーティーのうち複数が同時に格下げ又は債務不履行となる可能性は排除できず、その場合、グループの収益性に影響が及ぶと考えられる。

<中略>

2. グループの活動及びマクロ経済環境に関する財務リスク

<中略>

2.1 流動性リスク

<中略>

f. BFCM格付の大幅な悪化

BFCMはクレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの主たる発行会社であることから、グループを代表して格付を取得している。2023年12月31日現在のBFCMの長期（上位優先）債務の格付は、フィッチ・レーティングス（Fitch Ratings）ではAA－安定的（2024年1月19日に確認）、ムーディーズ（Moody's）ではAa3安定的（2024年2月1日に確認）、スタンダード・アンド・プアーズ（Standard & Poor's）（この格付機関による格付はクレディ・ミュチュエル・グループ及びその主たる発行会社に対するものである。）ではA＋安定的であった。これらの信用格付の低下は、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルのリファイナンスに影響を及ぼす可能性がある。

<中略>

2.3 市場リスク

<中略>

- b. 根強いコア・インフレに対する対策は2023年も続き、多くの中央銀行は金融引き締めを継続している。例えば、欧州中央銀行は継続的に預金金利を引き上げ、預金金利はマイナスゼロ％から4％へと2022年7月から2023年9月の間に4％上昇し、2008年以来の高水準に達した。

<中略>

2023年度のグループのトレジャリー部門の資本は175百万ユーロであった（2024年度は140百万ユーロに増額）。最後に、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、その他全ての自己勘定業務（一定のグループ子会社の発展を支援するためのUCIを含む。）のために、総額200百万ユーロの資本（2024年度は245百万ユーロに増額）を有している。

<中略>

3. グループの規制環境に関するリスク

3.1 規制・健全性環境に関するリスク

<中略>

最後に、破綻処理リスクは、流動性に係る単一破綻処理委員会（SRB）の運営指針の遵守を確保するプロセスの一環として監視される。の業務ガイドラインの遵守を確保するプロセスの一環としてモニタリングされている。このモニタリングは、銀行の破綻処理能力を向上させ、銀行危機及び預金保険の枠組み（危機管理及び預金保険－CMDI）を強化することを目的としている。

<中略>

4. グループの事業運営に関するリスク

<中略>

4.2 オペレーショナル・リスク

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの損失実績の合計（該当する場合、保険の受取額を除く。）は、2023年度のグループの純収益の約0.79%（1,274百万ユーロ）相当であった。

<中略>

4.4 気候リスク

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、そのセクター別方針により、介入の範囲を定義し、社会、ガバナンス及び環境への影響（気候リスクを含む。）が最も重大な分野において事業を遂行するための基準を設定することが可能となっている。このため、企業、投資及び保険のポートフォリオ全てについて、セクター別方針に適うエクスポージャーを監視して、気候リスクに最も影響を受ける可能性のあるエクスポージャーの当初の測定値を提供している。クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルには、石炭、鉱業、炭化水素、民間原子力エネルギー、防衛・安全保障、航空・海運・道路部門におけるモビリティ及び農業という7つのセクター別の方針がある。住宅用不動産（フランス国内に所在する不動産）のセクター別方針は2023年12月に確認され、2024年4月に発効する予定である。2023年度のクレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルのフランスにおける直接カーボンフットプリント（グループのエネルギー消費、冷媒、保有車両及び出張に関連する。）は、（2018年度から2022年度の間に30.4％減少した後）2022年度比で1％増加した。企業ポートフォリオ融資の間接カーボンフットプリント（貸付百万ユーロ当たりのCO2トン数で測定）は、2018年度から2023年度の間に58％減少した（2018年度から2022年度の間に55％減少した）。この数値は、クレディ・ミュチュエル・

アリアンス・フェデラルの戦略計画アンサンブル#ヌーボーモンド、プリュ・ヴィット！プリュ・ロワ
ン！（ensemble#nouveau monde, plus vite, plus loin!）（共に#新たな世界、より速く！より遠く
へ！）で設定した目標（15%減）を上回るものである。クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデ
ラル及びCICの非財務業績と気候コミットメントに関する詳細については、「第一部 企業情報／第5
提出会社の状況／3 コーポレート・ガバナンスの状況等／（1）コーポレート・ガバナンスの概要／
②社会的及び相互的責任」を参照のこと。

5. その他のリスク

<中略>

**政府による監督及び発行会社の規制
フランス及び欧州の規制の枠組み**

<中略>

最低自己資本比率、流動性比率及びレバレッジ比率

<中略>

また関連規制当局は、フランスの金融機関に対して上記の要件を上回る自己資本を維持するよう求め
ることがある。さらに、フランスの金融機関は、カウンターシクリカル・リスク及びシステミック・リ
スクを担保するための、全ての金融機関に適用される2.5%の資本保全バッファを含む、一定の普通株
式等Tier 1バッファ要件を遵守しなければならない。2022年12月27日、金融安定化高等評議会（Haut
Conseil de Stabilité Financière）（HCSF）は、2020年4月、カウンターシクリカル・バッファ比率
を1.0%に設定した（2024年1月2日以降適用）。

<後略>

<訂正後>

<前略>

1. グループの銀行業務及び保険業務に関するリスク

1.1 信用リスク

<中略>

c. **グループの最大顧客の1つ又はそれ以上が債務不履行に陥った場合、グループの収益性が低下する
可能性がある。**クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、主にフランスにおいて、特
定の国家、取引銀行又は大企業グループに対して比較的高い単一のエクスポージャーを有してお
り、これらの一部は公的機関が実施する支援策（すなわち、政府保証融資）から恩恵を受けてい
る。主に変動金利での借入を行うこれらのカウンターパーティーは、金利の上昇や経済情勢の悪化
等の影響を受け、返済困難に陥る可能性がある。国家及び類似機関等（2023年度末の総エクスポ
ージャーは1,810億ユーロ）については、グループは主にフランス（1,470億ユーロ）（主にユーロ・
システムの加盟銀行であるフランス銀行（Banque de France）（約810億ユーロ））及びフランス預
金供託公庫（Caisse des dépôts et consignations）のリスク（460億ユーロ超。規制貯蓄口座預金
の集中化制度により、フランスにおいてソブリン・リスクとみなされている。）のエクスポ
ージャーに晒されている。国家以外では、2023年12月31日現在、300百万ユーロ（純利益の10%未満に
相当）を上回るオン・バランスシート及びオフ・バランスシート上の単一のエクスポージャーは、
銀行に関しては6のカウンターパーティーについて60億ユーロ、企業に関しては67のカウンター
パーティーについて440億ユーロであった。これらのカウンターパーティーのうち複数が同時に格下
げ又は債務不履行となる可能性は排除できず、その場合、グループの収益性に影響が及ぶと考えら
れる。

<中略>

2. グループの活動及びマクロ経済環境に関する財務リスク

<中略>

2.1 流動性リスク

<中略>

f. BFCM格付の大幅な悪化

BFCMはクレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの主たる発行会社であることから、グ
ループを代表して格付を取得している。2023年12月31日現在のBFCMの長期（上位優先）債務の格付

は、フィッチ・レーティングス（Fitch Ratings）ではAA-安定的（2024年1月19日に確認）、ムーディーズ（Moody's）ではAa3安定的（2024年2月1日に確認）、S&Pグローバル・レーティング（S&P Global Ratings）（この格付機関による格付はクレディ・ミュチュエル・グループ及びその主たる発行会社に対するものである。）ではA+安定的であった。これらの信用格付の低下は、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルのリファイナンスに影響を及ぼす可能性がある。

<中略>

2.3 市場リスク

<中略>

- b. 根強いコア・インフレに対する対策は2023年も続き、多くの中央銀行は金融引き締めを継続している。例えば、欧州中央銀行は継続的に預金金利を引き上げ、預金金利はゼロ%から4%へと2022年7月から2023年9月の間に4%上昇し、2008年以来の高水準に達した。

<中略>

2023年度のグループのトレジャリー部門の資本は175百万ユーロであった（2024年度は140百万ユーロに変動）。最後に、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、その他全ての自己勘定業務（一定のグループ子会社の発展を支援するためのUCIを含む。）のために、総額200百万ユーロの資本（2024年度は245百万ユーロに増額）を有している。

<中略>

3. グループの規制環境に関するリスク

3.1 規制・健全性環境に関するリスク

<中略>

最後に、破綻処理リスクは、流動性に係る単一破綻処理委員会（SRB）の業務ガイドラインの遵守を確保するプロセスの一環としてモニタリングされている。このモニタリングは、銀行の破綻処理能力を向上させ、銀行危機及び預金保険の枠組み（危機管理及び預金保険－CMDI）を強化することを目的としている。

<中略>

4. グループの事業運営に関するリスク

<中略>

4.2 オペレーショナル・リスク

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの損失実績の合計（該当する場合、保険の受取額を除く。）は、2023年度のグループの純収益の約0.79%（127.4百万ユーロ）相当であった。

<中略>

4.4 気候リスク

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、そのセクター別方針により、介入の範囲を定義し、社会、ガバナンス及び環境への影響（気候リスクを含む。）が最も重大な分野において事業を遂行するための基準を設定することが可能となっている。このため、企業、投資及び保険のポートフォリオ全てについて、セクター別方針に適うエクスポージャーを監視して、気候リスクに最も影響を受ける可能性のあるエクスポージャーの当初の測定値を提供している。クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルには、石炭、鉱業、炭化水素、民間原子力エネルギー、防衛・安全保障、航空・海運・道路部門におけるモビリティ及び農業という7つのセクター別の方針がある。住宅用不動産（フランス国内に所在する不動産）のセクター別方針は2023年12月に確認され、2024年4月に発効する予定である。2023年度のクレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルのフランスにおける直接カーボンフットプリント（グループのエネルギー消費、冷媒、保有車両及び出張に関連する。）は、（2018年度から2022年度の間に30.4%減少した後）2022年度比で1%増加した。企業ポートフォリオ融資の間接カーボンフットプリント（貸付百万ユーロ当たりのCO2トン数で測定）は、2018年度から2023年度の間に58%減少した（2018年度から2022年度の間に55%減少した。）。この数値は、クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの戦略計画アンサンブル#ヌーボーモンド、プリュ・ヴィット！プリュ・ロワン！（ensemble#nouveau monde, plus vite, plus loin!）（共に#新たな世界、より速く！より遠くへ！）で設定した目標（15%減）を上回るものである。クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラル及びCICの非財務業績と気候コミットメントに関する詳細については、「第一部 企業情報／第5 提出会社の状況／3 コーポレート・ガバナンスの状況等／（1）コーポレート・ガバナンスの概要／②社会的及び相互的責任」を参照のこと。

5. その他のリスク

<中略>

**政府による監督及び発行会社の規制
フランス及び欧州の規制の枠組み**

<中略>

最低自己資本比率、流動性比率及びレバレッジ比率

<中略>

また関連規制当局は、フランスの金融機関に対して上記の要件を上回る自己資本を維持するよう求めることがある。さらに、フランスの金融機関は、カウンターシクリカル・リスク及びシステミック・リスクを担保するための、全ての金融機関に適用される2.5%の資本保全バッファーを含む、一定の普通株式等Tier 1バッファー要件を遵守しなければならない。2022年12月27日、金融安定化高等評議会（Haut Conseil de Stabilité Financière）（HCSF）は、カウンターシクリカル・バッファー比率を1.0%に設定した（2024年1月2日以降適用）。

<後略>

4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

<訂正前>

<前略>

2 BFCMの活動及び連結業績

2.1 BFCMの活動及び業績－連結範囲

<中略>

2.1.2 連結財政状態計算書の分析

BFCMの2023年度末現在の連結財政状態計算書の合計は、2022年12月31日現在の7,026億ユーロから2.4%増の27,195億ユーロであった。

<中略>

2.1.3 連結損益計算書の分析

<中略>

一般営業費及び営業総利益

<中略>

従業員給付費用（一般営業費の54%を占める。）には、特に2023年初めに決定された昇給の影響を反映している（人件費は4.5%増加した。）。

<中略>

リスク費用及び不良債権

<中略>

- ・ 専門家及び事業者顧客市場における債務不履行の増加並びにマーケット・ファイルの格下げにより、リテール顧客、コンシューマー・クレジットの顧客並びにコーポレート・バンキングに係る確定済リスクの費用は39ベースポイントに増加した（2022年度は26ベースポイント）。この悪化は、経済状況の悪化を反映したものである。

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの事業体との取引

<中略>

2022年度（プロフォーマ）は純受取利息（309百万ユーロ）を計上したのに対して、2023年度は当該取引による純支払利息は251百万ユーロに達した。純手数料はマイナス32百万ユーロに減少した。これらの事業体により認識されたその他の活動に関する費用純額は、2022年度（プロフォーマ）が744百万ユーロであったのに対して、2023年度は755百万ユーロであった。2023年度の間接費用は、2022年度末（プロフォーマ）が146百万ユーロであったのに対して、183百万ユーロであった。

<後略>

<訂正後>

<前略>

2 BFCMの活動及び連結業績

2.1 BFCMの活動及び業績－連結範囲

<中略>

2.1.2 連結財政状態計算書の分析

BFCMの2023年度末現在の連結財政状態計算書の合計は、2022年12月31日現在の7,026億ユーロから2.4%増の27,195億ユーロであった。

<中略>

2.1.3 連結損益計算書の分析

<中略>

一般営業費及び営業総利益

<中略>

従業員給付費用（一般営業費の54%を占める。）には、特に2023年初めに決定された昇給の影響を反映している（人件費は4.5%増加した。）。

<中略>

リスク費用及び不良債権

<中略>

- ・ 専門家及び事業者顧客市場における債務不履行の増加並びにマーケット・ファイルの格下げにより、リテール顧客、コンシューマー・クレジットの顧客並びにコーポレート・バンキングに係る確定済リスクの費用は39ベースポイントに増加した（2022年度末は26ベースポイント）。この悪化は、経済状況の悪化を反映したものである。

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルの事業体との取引

<中略>

2022年度（プロフォーマ）は純受取利息（309百万ユーロ）を計上したのに対して、2023年度は当該取引による純支払利息はマイナス251百万ユーロに達した。純手数料はマイナス32百万ユーロに減少した。これらの事業体により認識されたその他の活動に関する費用純額は、2022年度（プロフォーマ）が744百万ユーロであったのに対して、2023年度は755百万ユーロであった。2023年度の間接費用は、2022年度末（プロフォーマ）が146百万ユーロであったのに対して、183百万ユーロであった。

<後略>

第5【提出会社の状況】

3【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスの状況

<訂正前>

8 信用リスク

<中略>

8.4 標準的手法 (EU CRD)

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、中央政府及び中央銀行に関連するエクスポージャーのソブリン・リスクの測定に、格付機関（スタンダード・アンド・プアーズ、ムーディーズ及びフィッチ・レーティングス（Fitch Ratings））の評価を用いている。外部の格付により複数の格付レベルが可能な場合、最高格付から最低格付までランク付けられ、上位2番目の格付が加重リスクの計算に使用される。2017年9月以降、グループは、企業向けエクスポージャーに関して、主に、フランス銀行が提示した想定に基づいている。

<中略>

11 証券化 (EU SECA)

<中略>

11.2 資本市場の管理及び監視手続

<中略>

グループはさらに、外部格付機関であるスタンダード・アンド・プアーズ、ムーディーズ及びフィッチ・レーティングスにより付された格付を監視することにより、証券化トランシェの信用度を毎日観察している。また、これらの格付機関による行動（格上げ、格下げ又はウォッチ）を分析している。さらに、格付の変動について四半期ごとに概要書を作成している。

<後略>

<訂正後>

8 信用リスク

<中略>

8.4 標準的手法 (EU CRD)

<中略>

クレディ・ミュチュエル・アリアンス・フェデラルは、中央政府及び中央銀行に関連するエクスポージャーのソブリン・リスクの測定に、格付機関（S&Pグローバル・レーティング、ムーディーズ及びフィッチ・レーティングス）の評価を用いている。外部の格付により複数の格付レベルが可能な場合、最高格付から最低格付までランク付けられ、上位2番目の格付が加重リスクの計算に使用される。2017年9月以降、グループは、企業向けエクスポージャーに関して、主に、フランス銀行が提示した想定に基づいている。

<中略>

11 証券化 (EU SECA)

<中略>

11.2 資本市場の管理及び監視手続

<中略>

グループはさらに、外部格付機関であるS&Pグローバル・レーティング、ムーディーズ及びフィッチ・レーティングスにより付された格付を監視することにより、証券化トランシェの信用度を毎日観察している。また、これらの格付機関による行動（格上げ、格下げ又はウォッチ）を分析している。さらに、格付の変動について四半期ごとに概要書を作成している。

<後略>